

事務事業マネージメントシート

作成日 平成23年 05月 10日

事務事業名	真岡地区女性学級事業			担当	教育委員会 生涯学習課 女性青少年係					
政策名	B	学びと歴史・文化が豊かな心を育むまちづくり			電話番号					
施策名	1	生涯学習の推進			<input type="checkbox"/> 実施計画上の主要事業					
基本事業名					事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ				
法令根拠	社会教育法第5条(市町村の教育委員会の事務)					<input type="checkbox"/> 単年度繰返(開始年度 昭和40年度~)				
予算科目	1.一般会計	10.教育費	4.社会教育費	1.社会教育総務費		<input type="checkbox"/> 期間限定複数年度(年度~ 年度)				
事業概要	地域女性の学習と趣味・教養の場を提供するとともに、豊かな人間性を培い自己啓発を促す。真岡地区の女性を対象として、教養の分野、趣味的分野、研修視察等、年10回程度実施する。									

1. 現状把握の部 (1) 事務事業の目的と指標

①手段(主な活動)	<p>22年度実績 年度当初、広報により受講生を募集し、参加者の希望等により活動内容を決定して進める。各事業ごとに担当班を決めて準備等を行う。講師依頼通知。講師謝金支払事務。</p> <p>23年度計画 22年度と同様に実施する。</p>																																																							
⑤活動指標(事務事業の活動量を表す指標)の推移	<table border="1"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>単位</th> <th>19年度(実績)</th> <th>20年度(実績)</th> <th>21年度(実績)</th> <th>22年度(実績)</th> <th>23年度(見込)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ア:講師謝金</td> <td>円</td> <td>28,000</td> <td>42,000</td> <td>31,000</td> <td>21000</td> <td>49000</td> </tr> <tr> <td>イ:開催回数</td> <td>回</td> <td>18</td> <td>18</td> <td>12</td> <td>12</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>ウ:参加人数</td> <td>人</td> <td>78</td> <td>79</td> <td>85</td> <td>50</td> <td>47</td> </tr> <tr> <td>エ:</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>オ:</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>										名称	単位	19年度(実績)	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(見込)	ア:講師謝金	円	28,000	42,000	31,000	21000	49000	イ:開催回数	回	18	18	12	12	12	ウ:参加人数	人	78	79	85	50	47	エ:							オ:										
名称	単位	19年度(実績)	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(見込)																																																		
ア:講師謝金	円	28,000	42,000	31,000	21000	49000																																																		
イ:開催回数	回	18	18	12	12	12																																																		
ウ:参加人数	人	78	79	85	50	47																																																		
エ:																																																								
オ:																																																								
②対象(誰、何を対象にしているのか)*人や自然資源等	<p>真岡地区的成人女性</p>																																																							
⑥対象指標(対象の大きさを表す指標)の推移	<table border="1"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>単位</th> <th>19年度(実績)</th> <th>20年度(実績)</th> <th>21年度(実績)</th> <th>22年度(実績)</th> <th>23年度(見込)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ア:市内の成人女性の数</td> <td>人</td> <td>13,707</td> <td>13,825</td> <td>13,847</td> <td>13847</td> <td>13723</td> </tr> <tr> <td>イ:</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ウ:</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>エ:</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>オ:</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>										名称	単位	19年度(実績)	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(見込)	ア:市内の成人女性の数	人	13,707	13,825	13,847	13847	13723	イ:							ウ:							エ:							オ:										
名称	単位	19年度(実績)	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(見込)																																																		
ア:市内の成人女性の数	人	13,707	13,825	13,847	13847	13723																																																		
イ:																																																								
ウ:																																																								
エ:																																																								
オ:																																																								
③意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)	<p>女性の生きがいづくりと教養文化の向上を図る。</p>																																																							
⑦成果指標(対象における意図された対象の程度)の推移	<table border="1"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>単位</th> <th>19年度(実績)</th> <th>20年度(実績)</th> <th>21年度(実績)</th> <th>22年度(実績)</th> <th>23年度(見込)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ア:学級生数</td> <td>人</td> <td>78</td> <td>79</td> <td>85</td> <td>50</td> <td>47</td> </tr> <tr> <td>イ:</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ウ:</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>エ:</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>オ:</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>										名称	単位	19年度(実績)	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(見込)	ア:学級生数	人	78	79	85	50	47	イ:							ウ:							エ:							オ:										
名称	単位	19年度(実績)	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(見込)																																																		
ア:学級生数	人	78	79	85	50	47																																																		
イ:																																																								
ウ:																																																								
エ:																																																								
オ:																																																								
④結果(どんな結果(上位施策)に結びつけるのか)	<p>仲間づくりと生きがいづくりを進める。</p>																																																							
⑧上位成果指標(結果の達成度を表す指標)の推移	<table border="1"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>単位</th> <th>19年度(実績)</th> <th>20年度(実績)</th> <th>21年度(実績)</th> <th>22年度(実績)</th> <th>23年度(見込)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ア:仲間づくりと生きがいができる女性数 (受講生アンケート調査の結果)</td> <td>人</td> <td>78</td> <td>79</td> <td>85</td> <td>50</td> <td>47</td> </tr> <tr> <td>イ:</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ウ:</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>エ:</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>オ:</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>										名称	単位	19年度(実績)	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(見込)	ア:仲間づくりと生きがいができる女性数 (受講生アンケート調査の結果)	人	78	79	85	50	47	イ:							ウ:							エ:							オ:										
名称	単位	19年度(実績)	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(見込)																																																		
ア:仲間づくりと生きがいができる女性数 (受講生アンケート調査の結果)	人	78	79	85	50	47																																																		
イ:																																																								
ウ:																																																								
エ:																																																								
オ:																																																								
(2) 総事業費の推移	<table border="1"> <thead> <tr> <th>単位</th> <th>19年度(実績)</th> <th>20年度(実績)</th> <th>21年度(実績)</th> <th>22年度(実績)</th> <th>23年度(見込)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>事業費</td> <td>国庫支出金 県支出金 地方債 その他 一般財源</td> <td>千円 千円 千円 千円 千円</td> <td>0 0 0 0 54</td> <td>0 0 0 0 63</td> <td>0 0 0 0 39</td> <td>0 0 0 0 27</td> <td>0 0 0 0 0</td> </tr> <tr> <td>事業費</td> <td>事業費計(A)</td> <td>千円</td> <td>54</td> <td>63</td> <td>39</td> <td>27</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>人件費</td> <td>正規職員従事人數 延べ業務時間</td> <td>人 時間</td> <td>1 100</td> <td>1 100</td> <td>1 100</td> <td>1 100</td> <td>0 0</td> </tr> <tr> <td>人件費</td> <td>人件費計(B)</td> <td>千円</td> <td>419</td> <td>418</td> <td>406</td> <td>427</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td></td> <td>トータルコスト(A)+(B)</td> <td>千円</td> <td>473</td> <td>481</td> <td>445</td> <td>454</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table>										単位	19年度(実績)	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(見込)	事業費	国庫支出金 県支出金 地方債 その他 一般財源	千円 千円 千円 千円 千円	0 0 0 0 54	0 0 0 0 63	0 0 0 0 39	0 0 0 0 27	0 0 0 0 0	事業費	事業費計(A)	千円	54	63	39	27	0	人件費	正規職員従事人數 延べ業務時間	人 時間	1 100	1 100	1 100	1 100	0 0	人件費	人件費計(B)	千円	419	418	406	427	0		トータルコスト(A)+(B)	千円	473	481	445	454	0
単位	19年度(実績)	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(見込)																																																			
事業費	国庫支出金 県支出金 地方債 その他 一般財源	千円 千円 千円 千円 千円	0 0 0 0 54	0 0 0 0 63	0 0 0 0 39	0 0 0 0 27	0 0 0 0 0																																																	
事業費	事業費計(A)	千円	54	63	39	27	0																																																	
人件費	正規職員従事人數 延べ業務時間	人 時間	1 100	1 100	1 100	1 100	0 0																																																	
人件費	人件費計(B)	千円	419	418	406	427	0																																																	
	トータルコスト(A)+(B)	千円	473	481	445	454	0																																																	
(3) 事務事業の環境変化・市民意見等																																																								
①この事務事業を開始したきっかけは何か? いつごろどんな経緯で開始されたのか?	女性の知識・教養向上と社会参加、併せて仲間づくりと生きがいづくりの推進を図るため昭和40年より実施された。																																																							
②事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法等)はどう変化しているか、開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか?	特に、知識・教養を高めるためのニーズが多種・多様化している。																																																							
③この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか?	新たななものにチャレンジしていきたい。(受講生)																																																							

2. 1次評価の部 *原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的妥当性評価	①政策体系との整合性 ・この事務事業の目的は、市の政策体系に結びつくか? ・意図することが結果（上位施策）に結びついているか?	<input type="checkbox"/> 結びついている <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 生涯学習の推進に結びつく。
	②公共関与の妥当性 ・なぜこの事務事業を市が行わなければならないのか? ・税金を投入して達成する目的か?	<input type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 生涯学習の場の提供は市の責務である。
	③対象と意図の妥当性 ・対象を限定・追加すべきか? ・意図を限定・拡充すべきか?	<input type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 対象を見直す必要がある <input type="checkbox"/> 意図を見直す必要がある 市内の女性が対象となっている。
有効性評価	④成果の向上余地 ・成果を向上させる余地はあるか? ・成果の現状水準とあるべき水準の差異はないか? ・何が原因で成果向上が期待できないのか?	<input type="checkbox"/> 向上余地はない <input type="checkbox"/> 向上余地がある 合同研修会の開催について検討していく。
	⑤廃止・休止の成果への影響 ・事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は?	<input type="checkbox"/> 影響がある <input type="checkbox"/> 影響がない 学習機会を持ちにくくなる可能生がある。
	⑥類似事業との統合や連携の可能性 ・他に、類似の形態の事務事業はないか?	<input type="checkbox"/> 類似事業がある（類似の事務事業名を記載） <input type="checkbox"/> 類似事業はない
	・類似事業がある場合、その事業と統合したり連携を図ることができるか?	<input type="checkbox"/> 他の事業と統合・連携ができる <input type="checkbox"/> 他の事業と統合・連携できない
効率性評価	⑦事業費の削減余地 ・成果を下げずに事業費を削減できないか? (仕様や工法の適正化、住民の協力など)	<input type="checkbox"/> 削減余地がない <input type="checkbox"/> 削減余地がある 講師謝金のみの費用である。
	⑧人件費（延べ業務時間）の削減余地 ・やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか? ・成果を下げずにより正社員以外の職員や委託でできないか (アウトソーシングなど)	<input type="checkbox"/> 削減余地がない <input type="checkbox"/> 削減余地がある 必要最低限の費用である。
公平性評価	⑨受益機会・費用負担の適正化余地 ・事業の内容が一部の受益者に偏って不公平ではないか? ・受益者負担が公正・公平になっているか?	<input type="checkbox"/> 公正・公平である <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 教材費などは自己負担である。

3. 改革・改善方向の部

(1) 改革の方向性（改革案・実行計画）	<input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 見直し（ <input type="checkbox"/> ：目的妥当性 <input type="checkbox"/> ：有効性 <input type="checkbox"/> ：効率性 <input type="checkbox"/> ：公平性） <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 継続 合同研修会を行い、学級の拡張を図る。	(3) 改革・改善による期待成果
(2) 改革、改善を実現する上で克服すべき課題は何か？それをどう克服していくか？	合同研修の必要性を認識していく学級生の意識改革を行っていく必要がある。	

4. 事務事業の2次評価結果（事業の総括と事業の方向性）

(1) 1次評価結果の客觀性と出来具合	<input type="checkbox"/> 記述説明不足（説明責任不充分） <input type="checkbox"/> 評価内容が客觀性を欠く <input type="checkbox"/> 評価内容は客觀的と言える	(5) 改革・改善による期待成果
(2) 2次評価者としての評価結果	①目的妥当性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ②有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ③効率性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ④公平性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	
(3) 2次評価者として判断した今後の事業の方向性	<input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的絞込み <input type="checkbox"/> 目的拡充 <input type="checkbox"/> 事業統廃合 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善 <input type="checkbox"/> 予算削減 <input type="checkbox"/> 予算増大 <input type="checkbox"/> 現状維持（従来通りで特に改革改善をしない）	
(4) その他2次評価会議で指摘された事項		